

地 域 医 療 連 携 室 だ よ り

地域医療支援病院

独立行政法人地域
医療機能推進機構

特別号

宮崎江南病院
院長 白尾 一定

ひまわり

[ごあいさつ]

JCHO宮崎江南病院 地域医療支援病院 10周年を迎えて

宮崎江南病院

GUIDANCE

各診療科の案内
支援委員の先生方よりごあいさつ
地域医療支援病院承認からの10年

INFORMATION

地域医療連携室・医療福祉
相談室のご案内

病院の概要

10th Anniversary

理 念

私たちは、医療人としての奉仕の精神と和の心を大切にし地域に信頼される病院として医療・介護・福祉に貢献します。

キャッチフレーズ

安心な医療で地域の笑顔を支える宮崎江南病院

10周年を迎えて 地域医療支援病院 JCHO宮崎江南病院



地域医療支援病院の承認を受け10周年を迎えることが出来ました。登録医を始めとした地域医療機関のご支援に感謝申し上げます。石川正名誉院長の元で、地域医療支援病院を目指す方針となり、2004年4月に地域医療連携室(以下連携室)を開設し、小生は副院長・室長としての活動が始まりました。連携室は4名体制で、紹介率・逆紹介率の向上と登録医への挨拶回りから開始しました。連携室は、「地域医療機関のための連携室である」ことを徹底し、診療情報提供書のFAXによる受付、CT・MRIの予約も開始し、紹介医療機関へは「30分内に対応する」ことを目指しました。紹介入院患者のカルテは黄色に統一し、紹介医が自由にカルテを閲覧できるようにしました。また、登録医療機関からの要望により当院入院後の経過として入院2週間を目処として、治療経過について中間報告書を作成しFAXにて報告しています。連携室だより「ひまわり」を年4回発行し、当院の診療内容や登録医の紹介及び当院の活動内容を記載しています。症例検討会は月1回開催し、紹介患者の経過報告や当院の診療科及び部署を紹介、年1回は特別講演会として、院外の演者を招いて講演会を開催しています。連携室を設置し、約2年目の2006年に紹介率・逆紹介率が向上したことで、登録医療機関57施設(登録医58名)体制にて申請し、地域医療支援病院として認可されました。2016年10月現在、登録医療機関142施設(登録医149名)体制となっています。

2014年4月より社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の全国57病院からなる独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)が発

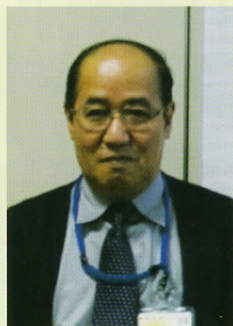
足し、JCHO宮崎江南病院院長に就任しました。地域医療支援病院としての活動は継続しながら、当院の特徴を明確化するために、2016年4月より手外科・創傷センター、透析センター、リハビリテーションセンターとセンター化する一方、地域包括ケアシステムへの積極的参加を表明しました。2014年11月より訪問看護ステーションの新町智徳看護師長を、連携室地域包括ケア担当、訪問看護広報・教育担当兼務の企画係長として異動して頂き、2015年4月より地域包括ケア推進センターとして活動を開始しました。大淀地域包括ケアセンター・赤江北地域包括ケアセンター等への挨拶回りや地域包括ケアに対する勉強会を開催し、当院の地域包括ケアシステムへの活動を活発化させて頂いています。

2014年に診療報酬改定があり、亜急性期病棟20床を地域包括ケア病棟として8月より運用を開始、2016年7月より地域包括ケア病棟を44床に増床しました。2014年より在宅療養後援支援病院として、24時間体制で入院患者の受入を開始しています。現在、連携室は9名体制で、看護師3名(WOC認定看護師1名)も活動しています。当院は、7:1の急性期病院、亜急性期としての地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟および介護老人保健施設があり、訪問看護ステーション・訪問リハと居宅事業所、健康管理部門を備えています。

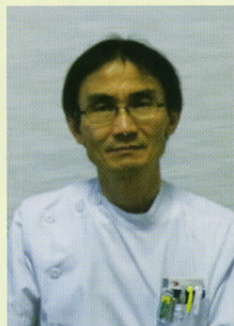
今後も地域医療支援病院として登録医療機関に求められる急性期機能を発展させ、地域包括ケアシステムへ対応できる病院として変革していきます。今後とも皆様の御協力・支援を宜しくお願い申し上げます。



JCHO宮崎江南病院院長
白尾 一定



事務部長
中村 敦



副院長
松尾 剛志



看護部長
土居 早苗



健康管理センターセンター長
杜若 陽祐



田中外科医院

田中 俊正 先生



まずは江南病院の地域医療支援病院の承認から10年を迎えられ、おめでとうございます。

10年なんて早いものですね。ついこの前だと思ってましたのに！

少しだけ自己紹介を致します。鹿児島大学第一外科の出張先で7年余り過ごさせてもらった江南病院を昭和62年に巣立ちまして、縁あって現在地、国富町本庄で外科の有床診療所を経営している「田中」です。開業当時は、未だ若く色々な症例に取り組んでいました。

その折母校の鹿大一外科からも多くの応援をもらいましたが、江南病院には大変お世話になり、外科ドクターの応援をお願いし、18時頃から執刀のOpe. もたくさんありました。午前中にAppe. を4例片付けた事もありました。勿論外来を見ながら。

一番記憶に残るのは80才の老人に愛甲Dr. (同級生のよしみで) を呼び臍頭十二指腸切除を成功させた事です。しかしながら医療を取り巻く環境が次第が変わって行き、田舎の人達ももっとスタッフのいる大きな病院で手術を受けたいと口にするようになり、少しずつ江南病院への紹介患者が多くなりました。この事は会計担当の事務長さんをホッとさせました。鹿大から応援を呼ぶとホテル代、飲食代等かなり赤字だった様です。

宮崎江南病院が地域医療支援病院として10周年を迎えられましたことに心からお慶び申し上げます。また、この10年の間に社会保険病院から(独)地域医療機能推進機構(JCHO)へと組織は変わりましたが、住民にとっては以前から慣れ親しんだ「江南病院」であり、地域にとってなくてはならない基幹的な医療機関としての役割を果たしてこられましたことに、改めて敬意を表します。

さて、高齢社会とともに人口減少社会に突入し、団塊の世代が75歳以上となるのが2025年。この問題に対処するために、限りある資源(医療機関、マンパワー)で持続可能な医療・介護が提供できるようにする取組みが現在行われています。

そのひとつが「病床の機能分化と連携」。県がとりまとめる地域医療構想では、病床を「高度急性期機能」「急性期機能」「回復期機能」「慢性期機能」に分類したうえで、担う病床機能を医療機関が自ら選択することとなっています。この選択は経営にも直結するだけに大きな判断にはなりますが、江南病院は地域医療支援病院でもあり、各医療機関との連携ではこの10年間に培ったノウハウがあります。さらに多くの医療機関と連携され、地域完結型の医療を展開して頂きたいと思います。

そしてもうひとつが「地域包括ケア」。住み慣れた地域・自宅等で、自らが選択する医療・介護を受けながら人生の最期まで

これからの有床診療所としては、Ope. はしなくても進行する超高齢化社会の中で、地域包括ケア体制(医療、介護)の中核施設として頑張らなければならないと思っています。専門特化型の有床診療所とは別にこれからは「総合医」として「医療は患者の生活全体を考える」、「介護と医療は連携が必要だ」と日頃実感しています。そのためには江南病院の力添えが不可欠であります。地域医療支援病院制度は地域に必要な医療を確保し、地域の医療機関等の連携を図る観点から、かかりつけ医等を支援する医療制度として平成9年の第3次医療法改正において創設されたと伺っています。又、近い将来地域医療連携推進法人制度の創設も考えられているようです。人口減少社会に向かっている日本の医療、介護の現状を皆で考え、将来(2025年)のあるべき医療体制について考えたいと思います。この時、JCHO宮崎江南病院の果たすべき力は偉大な物があると思われま。そして、田舎の小さなクリニック(特に有床診療所)を忘れる事のない様頑張って欲しいと思います。小生がいつも口にしていますが「主役は患者さんなのだから」をモットーに！

バラバラな内容になってしまいましたが、明日からの江南病院の益々の発展を期待しております。

暮らすことができるよう、一体的なケアを提供できる社会を創生していく取組みが行われています。これは家族や提供側の都合ではなく患者自らの希望にそったケアを提供できるようにするという、生活の質、生き方の質の改革でもあります。宮崎江南病院はJCHOの中でも地域包括ケアに積極的に取り組んでいる病院として高く評価されますので、今後もさらに多くの住民・関係者も巻き込みながら展開して頂きたいと思えます。

そうして、団塊の世代を支える団塊ジュニアが65歳以上となる2035年。団塊ジュニアを支える集団世代がない時代を見据え、地域に根ざした医療・介護を展開されることを期待しております。

最後になりますが、貴院の益々のご発展を祈念致しまして、10周年に寄せる言葉とさせていただきます。今後も住民に安心と希望を与える宮崎江南病院に期待しております。



宮崎市健康管理部長・保健所長

伊東 芳郎 先生



- 2004.4 地域医療連携室設置
- 8 連携便り「ひまわり」創刊
- 2005.3 宮崎社会保険病院症例検討会から江南医療連携の会・症例検討会へ
- 11 創立50周年記念式典・祝賀会開催
- 2006.4.1 地域医療連携室 設置
- 11.28 地域医療支援病院 承認
- 2007.1 第1回地域医療支援委員会開催

独立行政法人
地域医療機能推進機構
宮崎江南病院

年表



平成18年度 宮崎社会保険病院地域医療支援委員会
平成19年1月30日 於ウェルシティ宮崎(宮崎厚生年金会館)

- 1.30 第1回地域医療支援委員会開催
- 4.24 第2回地域医療支援委員会開催
- 10.30 第3回地域医療支援委員会開催
- 2008.4.15 第4回地域医療支援委員会開催
- 10 当院の設置母体が社会保険庁からRFO(独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構)に移管
- 10.28 第5回地域医療支援委員会開催
- 2009.1 病院名称を、宮崎社会保険病院から「社会保険宮崎江南病院」に変更
- 4.14 第6回地域医療支援委員会開催
- 10.13 第7回地域医療支援委員会開催
- 2010.3 健康管理センター竣工(STEP 1)
- 4.13 第8回地域医療支援委員会開催
- 6 2階西病棟完成(STEP 2)
- 10.12 第9回地域医療支援委員会開催
- 11 新外来棟完成(STEP 3)
- 2011.4.12 第10回地域医療支援委員会開催
- 10.11 第11回地域医療支援委員会開催
- 11 3階西・2階東病棟完成(STEP 4)
- 2012.3 3階東・4階・5階病棟(本館東側)完成(STEP 5)
- 4.10 第12回地域医療支援委員会開催
- 6 3階東西・4階・5階病棟(本館西側)完成(STEP6)



- 7 3階東・手術室完成
- 9 竣工記念祝賀会
- 10.9 第13回地域医療支援委員会開催
- 2013.4.16 第14回地域医療支援委員会開催
- 10.15 第15回地域医療支援委員会開催
- 2014.4.1 独立行政法人地域医療機能推進機構
宮崎江南病院となる 白尾一定院長就任
在宅療養後方支援病院届出



- 4.15 第16回 地域医療支援委員会開催 第1回地域協議会開催



- 8.1 亜急性期病床から地域包括ケア病棟へ移行(20床)
- 10.21 第17回地域医療支援委員会開催 第2回地域協議会開催
- 2015.3 理念・キャッチフレーズ決定
- 4 地域包括ケア推進センター設置
- 4.21 第18回地域医療支援委員会開催 第3回地域協議会開催
- 10.20 第19回地域医療支援委員会開催 第4回地域協議会開催
- 2016.4.19 第20回地域医療支援委員会開催 第5回地域協議会開催

- 7.1 地域包括ケア病棟 44床へ増床
- 10.18 **第21回地域医療支援委員会開催 第6回地域協議会開催**



Surgery



外科部長

秦 洋一

当院の外科では、腫瘍外科を中心に、消化器・呼吸器・乳腺・甲状腺と幅広い分野で手術を中心とした治療を行っております。

早期がんには腹・胸腔鏡を用いた手術、進行がんでは手術と化学療法を組み合わせた手術を行います。がん治療の告知から治療まで一貫した医療を目指しています。

ストーマ外来を第1月曜日の午後15時～17時に外科外来で行っております。電話での予約が必要となります。また、乳腺・甲状腺外来を設けております。



医員 米盛 圭一
医員 戸田 洋子
院長 白尾 一定

Nephrology & Dialysis



腎臓内科

山田 和弘

当院は、日本透析医学会認定施設・教育関連施設の1つです。慢性腎臓病に対する内科的治療、進行した腎不全やシャントトラブルに対するシャント手術、血液透析の導入などを中心に各種腎臓疾患に対応しています。

血液透析以外に腹膜透析の導入や継続、腎炎・ネフローゼ症候群の患者様の精査(腎生検)や治療なども行っています。

透析室はベット数60床有しており、月・水・金2クール火・木・土1クールで透析を行っており入院患者様20～30名、外来患者様が約130名ほど対応しております。



医長 馬場 明子
医員 岩切太幹志

Internal medicine



内科部長

平山 直輝

循環器内科については、日本循環器学会認定の循環器専門医研修施設であり、迅速な対応、質の高い医療をモットーに地域に根差した医療を行っています。心臓カテーテル検査や心筋シンチグラム、心臓超音波検査、ホルター心電図などの最新の検査機器を備えており、狭心症、心筋梗塞、不整脈、心臓弁膜症などの代表的な循環器疾患の検査はもちろんですが、高血圧・脂質異常症・糖尿病を中心とした生活習慣病の診断、治療にも力を入れています。また、CPX検査(心肺運動負荷試験)を用いるなどして、患者さまごとに最適な心臓リハビリテーションも行っています。

消化器疾患の患者様に対しては電子内視鏡・腹部超音波検査など消化器領域の癌の早期発見に努めています。胃や食道、大腸等の消化器癌は早期発見により、内視鏡治療で根治が可能な場合があります。また、潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患のほか、様々な消化器疾患の診断治療を行います。消化器内科医師がH28年4月より2名増員となり3名体制で診療にあたっております。

医長 田中 弦一(リウマチ・膠原病・感染症)
医長 高木 信雄(消化器内科)
医長 渡邊 玲子(循環器内科)
医員 田中 美幸(一般内科)
医員 増田 稔(消化器内科)
医員 山本 紗子(内科・循環器内科)
医員 米澤 玲美(内科・消化器内科)
医員 津守 容子(内科・循環器)
医員 福田 智子(内科・循環器)
医員 川野 友里香(循環器内科・一般内科)
副院長 松尾 剛志

Anesthesia



麻酔科部長

近藤 修

麻酔科は、安全を第一に細心の注意を払って患者様の麻酔管理を行っています。

麻酔管理の難しい循環器や呼吸器に合併症のある患者様や超高齢者の方の手術では、術中の麻酔管理だけでなく、術前から術後までトータルな周術管理を行っています。



医員 山下 昌子

Radiation



放射線科部長

結城 康弘

当科はヘリカルCT、超電導MRI、RI(核医学)、超音波診断装置(US)血管造影装置などを用いて、総合的な画像診断を行っています。

当院の診療科の検査はもちろん、院外からの紹介検査にも対応しています。

また、治療業務として肝臓がんに対する動注化学療法や血管のIVR、消化管内視鏡によるポリペクトミー、腫瘍のEMRなどを行っています。

平成28年10月より医師が1名増員となり、また平成29年4月より3T-MRIを新しく導入し2台体制となるのでより充実した体制で検査を提供できる予定です。



医長 伊藤 泰教
医長 宮田 裕子
医員 古賀 治幸

Plastic surgery



形成外科部長

大安 剛裕

当院は宮崎県内唯一の形成外科認定施設です。その為、形成外科的治療の必要な患者様が県内各地から受診されています。

具体的な治療としては、労災や交通外傷による手足の外傷、顔面の外傷の治療を行っています。さらに、多くの再建術も行います。褥瘡に対する外科的手術や再発予防の指導も認定看護師と共同して積極的に行っております。

治療の具体例としては熱傷、顔面骨骨折・軟部組織損傷、口唇裂・口蓋裂、先天性異常外傷・変形や癬痕・癬痕拘縮・ケロイドや褥瘡・難治性潰瘍などに対する治療を行っています。

医員 土居 華子
医員 伊藤 綾美
医員 小山田 基子
医員 高橋 美保子

Orthopedics



整形外科部長

益山 松三

整形外科は、骨折や脱臼、靭帯損傷等の外傷、変形性関節症、脊椎等の慢性疾患、関節リウマチ、四肢関節の感染症、腫瘍等の手術、治療を行います。

27年度年間手術件数は369件でしたが、28年度は上半期で229件と更に手術症例を増やしております。また、リハビリテーションにより残存した機能を最大限に活かし、必要な動作が行えるようにサポートしています。

当院は、回復期リハビリテーション病棟を43床有しており、約8割以上が整形外科疾患の患者様となっております。

医長 坂田 勝美
医長 甲斐 糸乃
医員 吉川 大輔
医員 吉田 修子



私たちが繋がります



後方左より

吉田 祥子 太田 智恵
(事務員) (相談員)

井戸川 美香
(社会福祉士)

内山 香織 槐島 澄江
(副看護師長) (事務員)

前方左より

安藤 麻美
(社会福祉士)

長友 真弓
(皮膚排泄ケア認定看護師)

新町 智穂
(看護師長)

佐藤 貴代
(社会福祉士)

地域医療連携室 (地域包括ケア推進室)

- 回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟への入院相談窓口
- 受診や検査等の予約受付
- その他、研修会の開催や会議の開催など地域連携にかんすること

医療福祉相談室

- 入院・外来を問わず患者様やご家族からの様々な相談受付
- 退院調整等

医療と介護の相談窓口『江南ひまわり』 平成29年1月より OPEN 予定

NEW
FACE

目的 地域にある医療と介護の相談窓口として一般住民や医療・介護従事者からの相談受付を行い、地域連携を促進します。

内容 毎週木曜日 13:30~14:30 (1時間程度)
優先的に院外の一般住民や医療・介護従事者の相談を受け付けます。エンディングノートなどの案内・普及地域への出前講座などの受付・調整を行います。

お問合せ [直通電話] 0120-855-082 / 0985-52-4004 [直通FAX] 0120-855-083 / 0985-51-1479
[E-mail] renkei@miyazaki.jcho.go.jp

病院の概要

OVER
VIEW

病院名	独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院
所在地	宮崎市大坪西1丁目2番1号 TEL: 0985-51-7575 FAX: 0985-53-8821
設立者	社会保険庁
開設者	独立行政法人地域医療機能推進機構
開設年月日	昭和30年11月2日
総敷地面積	10,221,64㎡
建築延面積	20,154,79㎡

病床数	269床 (うち回復期リハビリテーション病床 43床 うち地域包括ケア病棟 44床)
診療科	内科・循環器科・外科・整形外科・形成外科・ 放射線科・麻酔科・リハビリテーション科
附属施設	JCHO宮崎江南病院附属介護老人保健施設 JCHO宮崎江南病院附属訪問看護ステーション JCHO宮崎江南病院附属居宅介護支援センター
職員総数	JCHO宮崎江南病院附属健康管理センター 589名 (平成28年12月1日付)

宮崎江南病院

宮崎市大坪西1-2-1 TEL.0985-51-7575 FAX.0985-53-8821
http://miyazaki.jcho.go.jp

地域医療連携室

T E L .0985-52-4004 F A X .0985-51-1479 (地域医療連携室直通)
E-mail : renkei@miyazaki.jcho.go.jp

室長 白尾一定 担当 佐藤 貴代
作成: JCHO宮崎江南病院 広報委員会